

2022年9月24日

2021年度学校関係者評価報告書

エール学園  
学校関係者評価委員会

エール学園学校関係者評価委員会では2021年度自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

1 学校関係者評価実施概要

① 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社OSコンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校

② エール学園参加者

氏名	所属	属性
任 澁龍	エール学園	卒業生 同窓会会長
長谷川 恵一	エール学園 総長	総長
萩原 大作	エール学園 副総長	副総長
崎村 真	エール学園 理事長	法人代表者
木田 明美	エール学園 副理事長	法人本部事務責任者 事務局担当
木村 多恵子	エール学園 校長	学校代表者
豫城 聖子	エール学園 キャリ教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者

田中 雅彦	エール学園 応用日本語教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者
西村 康司	エール学園 キャリア支援本部 本部長	就職支援関係担当者
濱田 久美子	エール学園 日本語教育事業本部 本部長	日本語教育学科運営責任者

③ エール学園学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2022年9月1日（木） 15時00分～17時00分		
場 所：エール学園3号館7階 705教室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
15時00分	1. 開会挨拶	長谷川総長
15時10分	2. 委員紹介	事務局
15時20分	3. 2021年度自己評価結果全体について ・自己評価結果概要説明 ・専修学校における学校評価ガイドラインに 基づく評価の大項目別の概要説明 ・各学科の活動状況報告及び進路状況につ いて	学校側各担当者
16時20分	4. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
16時40分	5. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
16時50分	6. 閉会挨拶	木村校長
参考資料		
1 2021年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2022年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2021年度財務状況資料 決算概要		
6 その他の資料		

2 外部委員より頂いた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なりたい自分」(=将来自分がありたい姿)、「つくす自分」(=利他の気持ちを持ち社会、周囲のために尽力する)を理念の本質を理解している職員から学生が学び続けることで、多くの専門知識を学ぶことと並び「自分で常に考え、周囲のために行動する人材に成長する」ことは、これからの時代で必須となる自走力を持つ上で非常に有用かつ効果があると企業視点からも考えています。これからも同校の教育重点目標として大切にして頂きたいと考えています。</li> <li>・「なりたい自分とつくす自分」の目標で他者への配慮があるのが良く、持続可能な経済、社会の実現、世界の人類に貢献する人材を育成する方向に向かっています。</li> <li>・「なりたい自分」の理念実現のために具体的な取り組みをされていることで実現に繋がられておられることがよく分かります。</li> <li>・国立大学への進学の結果がほぼ達成でき、ベトナムに向けての活動が進められており評価ができます。</li> </ul>
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在社会的にトレンドあることを知識ベースの講義として一方的に教育するのではなく、学生自らがその社会的トレンドを理解する必要性に気づかせるような理念をもち、人材を育成していると感じます。例えば一様に講義としてSDGsについて知識や考え方を学ぶのではなく、ボランティア活動などを通じなぜ今の社会にSDGsが必要なのかを学生自らに考えさせることを大切にしています。故に学生も自分で考え、判断し、行動できる(自走力がある)人材に成長することにつながると考えています。</li> <li>・第一世代から第三世代へと理念が継続され国際化も進み、教育版のインバウンドが達成されています。</li> <li>・世間的には形骸化しやすい理念をミッション、ビジョン、バリューで表現され、具体的な行動指針に落とされ、さらに4-5項目の行動指針を設定されていることで浸透が可能になっていると思います。</li> <li>・教育理念、教育の目的、教育人材像はいずれも明確になっており、これからの東アジア・東南アジアに求められる学園の在り方も具体的であると思われます。</li> </ul>
基準2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がより効果的に学んだことを習得できる復習システム(YTM)や就職でも従来の就活以外にも卒業生で起業している経営者とのネットワー</li> </ul>

	<p>ク（GPM）の構築など、学生にとって従来と同様な成果でもそこに至るプロセスを新規に開拓、構築、運営していることは高く評価しています。また同校特長として企業との連携、行政との連携なども今後学校運営に新たな展開を期待したいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営の基本となる募集人員1100人を達成していますが、コロナ禍とはいえこの2年間で400人の人数減を止められませんでした。</li> <li>・学生の成長を支援するためには、まず、教職員自身の成長が欠かせないとの運営方針が素晴らしいと思います。</li> <li>・運営方針、事業計画、運営組織の在り方、教職員の処遇など健全で意欲的な学校運営がなされています。</li> </ul>
<p>基準3 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で通常講義も対面での講義が制約され、学外教育としてのインターンシップも影響を受ける中で、復習スキーム（YTM）やオンラインハイブリッド講義で感染リスクにも配慮しながら、学生の理解浸透に対して投資を行っています。また教育活動の成果として、大学進学や就職についても国公立大学、上場企業への就職などターゲットをより具体的に設定し一般企業と同様に常に学生ニーズにあわせて目標を変化させ、学生からの対期待値満足も高いと感じています。</li> <li>・学生の多様化する国籍と非漢字圏の学生が増える中、メンター制度を導入して希望進路の多さに良く対応していると思います。</li> <li>・専門課程それぞれの項目に明確な方針を掲げられ、より実践的な取り組みをされている印象を持ちました。メンター制度も大変素晴らしいと思います。</li> <li>・多彩な学科、多様なカリキュラムで、各学科とも高い教育目標があり、時代や国際環境、業界のニーズに向けた教育活動が行われています。</li> </ul>
<p>基準4 教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学科、専門学科双方で国公立大学進学率、上場企業への就職率のKGIを設定し職員、講師がその設定目標を意識し、学生へのコミット成果として考え教育、指導を行っています。コロナ禍で特に就職については企業経営、既存事業が見直される中で、上場企業への就職については対KGI目標値に対しての達成率は21%と影響が大きくなりましたが、コロナ禍では卒業後の就職活動継続を希望する学生（特定活動ビザ）が100名以上いる中で、従来の就職支援から新規就職支援にシフトするなど、市況に応じて職員、講師が学生に指導することで、数値以上の実績を残していると企業視点からも考えています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学への合格と難関私立大学への合格者が175名と高い成果が出ており、又、就職希望者は全員の就職を目指して指導されているのが見えます。</li> <li>・就職希望者への就職100%の達成、また、大学進学においても高い実績をあげておられます。</li> <li>・就職100%を達成し、難関国公立大学・大学院への進学に大きな実績があがっています。就職率、進学率の向上を図るためのサポートを行う体制が整えられています。</li> </ul>
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学科学生はコロナ禍の入国規制により大半の学生が海外からのオンライン講義に参加する中でオンライン講義工夫、また来日学生に対してはボランティア活動やインターンシップなどの学外活動について制約がある中で担任の先生から細かなコミュニケーションを通じて学生の状況をフォローするなど、学生との直接接点が制限される中で手厚な学生生活の支援を国内外で継続していたと評価しています。</li> <li>・アルバイトの世話から、寮の設備等良く対応されており、コロナ禍での学びを継続する為の物心両面の支援が行われています。</li> <li>・就職指導、進学指導、生活指導、各種相談体制と、それぞれに専門人材を配置され、各国語でのサポートの実施により海外の保護者との連携もされているところが素晴らしいと思います。</li> <li>・就職に関する説明会や個別面談などサポートが有効になされています。学生相談に関する体制、経済的な支援体制、健康面の支援体制なども整備され、体制は有効に機能されています。</li> </ul>
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ前からの独自に取り組んでおられた海外とのオンライン講義システムとコロナ禍で浸透した ZOOM オンライン講義の双方を取り入れ、海外大学との講義連携など、他校にはない海外教育機関との連携は、同校留学生はもちろん、新規に日本に留学を検討するきっかけも提供しており、コロナ禍の逆境をプラスに変える教育システムを常に模索し、投資をしていると評価しています。</li> <li>・教室が近くに集まっており、ICT 設備も整い、コロナ禍でのリモート授業も、又、インターンシップも良くやっているといます。</li> <li>・全教室に ICT 設備を導入され、コロナ禍をきっかけに大きく変化に対応されたことで、生徒にとって最適な教育環境が出来つつあるのではないかといます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 設備の全教室配備など最新の教育環境に配慮されています。企業インターンシップや学外実習の実施等の教育面だけでなく、防災に対する体制も整備されています。</li> </ul>
<p>基準 7</p> <p>学生募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度からベトナム、ネパールに出張を開始しての現地学生との直接募集が開始される中で、欧米と比較して日本に留学する意義について、学生はもちろん、学生両親からも期待が大きくなっており、日本のプレゼンス（治安のよさ、経済力など）を海外で伝えることで確実に同校への留学生募集にはプラスになってくると感じています。特に同校はアジア各国で現地大学と連携を強化するなど、コロナ禍以前からの海外現地大学との連携が強みで、海外からの入国規制が緩和されるに従い、日本独特のプレゼンスから同校への留学需要は高いと考えています。</li> <li>・海外のトップ大学との提携も進み、教室の建て替えも進んでいます。各学科の内容面で区別が、入学前の学生は、わかっているのでしょうか？</li> <li>・海外の各地に連絡事務所を設置され、海外のエージェントとの信頼関係などの構築に努められ、きめの細かい対応を実現されています。</li> <li>・海外、特にベトナムのトップレベルの大学と連携するなど、レベルの高い学生の募集が行えており、奨学金制度を整えられています。</li> </ul>
<p>基準 8</p> <p>財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資本比率 75%、流動比率 341%と財務状態は安定しており、流動資産の内現預金が約 87%と現金比率も高く、コロナ禍においてもコストを抑制し財務健全性が高い経営を行っています。2020 年からのコロナにより海外からの新規留学生の入国が制限されたことの影響が今後出るとは避けられませんが、流動負債内の短期借入金もなく、これまでの投資インフラを活用するステージに入ると考えています。今後海外からの入国が正常化、また留学生の受け入れを国策として強化する中で収支バランスは安定すると考えています。</li> <li>・実質無借金経営であり、コロナ禍でも黒字経営であり評価大である。2024 年度の新専門学校の開校に期待しています。</li> <li>・2018 年に負債ゼロを達成されるなど強固な財務体質を構築されており、素晴らしいと思います。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で学生数が減少となったものの、予算を上回る収支額、黒字とのことで安定した財務状況と思われます。</li> </ul>
<p>基準 9</p> <p>法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報などを多く扱う学校法人となり、情報管理やそれに付随する法令についても徹底遵守しており、法令遵守の観点から問題、課題と感ずること</li> </ul>

	<p>なく、徹底されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の多国籍化による文化の多様性にもよく対応して学生の在籍管理に注力し、情報公開も進んでいます。</li> <li>・各省庁が定める規定や基準を順守するための様々な取り組み、基盤ができており、行政からの認証も受けられておられ素晴らしいと思います。</li> <li>・留学生の在籍管理に力を入れた運営で「在籍管理適正校」の認定を受けるなど、高い評価を得られています。教職員の労働環境の改善にも努められています。</li> </ul>
<p>基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校教育理念の「つくす自分」として社会・地域貢献は同校がこれまでも実績を培ってきたことであり、コロナにより社会接点が制約される中、コロナ後の社会が正常化される中で、再び同校が大切に育んできたボランティア活動で社会・地域に貢献することを一地域民としても切に期待し、学生も貢献活動から他人のことを尊び、周囲に貢献できる人材に成長することを強く期待し、願っています。</li> <li>・地域社会への貢献で、小学校の外国児童の指導がTV報道もされ、さらに学校の知名度も上がっていると思います。</li> <li>・「多文化共生の地域づくりに貢献する学園となる」ビジョンはこれからの日本が必要な方向性でありその貢献は大きいと思います。</li> <li>・感染拡大の影響で実施は難しかったものの、地域への通訳・翻訳の協力、地域貢献型インターンシップの実施、ボランティア活動、企業や団体との連携・交流など様々な取り組みを行っており、貢献されています。</li> </ul>

### 3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべく、ここにこの結果を公開致します。

また、継続的に自己点検・自己評価→学校関係者評価のPDCAサイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上